

2019 年度 清教学園中・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

清教学園の目指す人間像

- ①神を信じ誠実に仕える
- ②真理を学び賜物を生かす
- ③隣人と共に平和を築く

2 中期的目標：

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上～

1 教育の質的向上

- (1) 学力伸張を図る
- (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
- (3) 高い倫理観と Servant Leadership を育成する *Servant Leadership : 「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え

2 生徒における学校生活の充実

- (1) 特別活動の充実
- (2) 生徒指導の充実
- (3) 生徒支援

3 環境整備力の向上

- (1) 施設の充実
- (2) 外部環境への対応
- (3) 情報の共有化と発信力の促進

【学校評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校評価アンケートの結果と分析 [2019年11月・12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p><評価結果の高かった項目></p> <p>【中学生】</p> <p>(12) 宗教・人権教育が重要視されている 95.8%</p> <p>(30) 熱心に指導してくれる教員が多い 93.3%</p> <p>(2) 生徒は充実した学園生活を送っている 92.7%</p> <p>(16) 学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている 91.5%</p> <p>(23) 図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている 91.5%</p> <p>(24) 姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実している 91.5%</p> <p>【高校生】</p> <p>(2) 生徒は充実した学園生活を送っている 89.7%</p> <p>(30) 熱心に指導してくれる教員が多い 88.9%</p> <p>(26) トイレ設備が整備されている 87.9%</p> <p>(24) 姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実している 87.6%</p> <p>(12) 宗教・人権教育が重要視されている 86.8%</p> <p>【中学保護者】</p> <p>(16) 学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている 100.0%</p> <p>(24) 姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実している 98.1%</p> <p>(33) P T A 活動が盛んである 98.1%</p> <p>(18) 規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 97.1%</p> <p>(23) 図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている 97.1%</p> <p>【高校保護者】</p> <p>(33) P T A 活動が盛んである 95.6%</p> <p>(18) 規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 94.5%</p> <p>(2) 生徒は充実した学園生活を送っている 94.0%</p> <p>(12) 宗教・人権教育が重要視されている 94.0%</p> <p>(19) いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる 94.0%</p> <p>【教職員】</p> <p>(23) 図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている 98.1%</p> <p>(20) 生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している 96.2%</p> <p>(9) 「社会（地歴・公民）」には学力向上につながる授業が多い 95.0%</p> <p>(2) 生徒は充実した学園生活を送っている 94.3%</p> <p>(19) いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる 94.3%</p> <p>(24) 姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実している 94.3%</p> <p>(30) 熱心に指導してくれる教員が多い 94.3%</p>	<p>学校法人清教学園評議員会をもって学校関係者評価委員会とする。なお、評議員の選定は、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の3つの枠を設けた上で行われている。</p> <p>2019（令和元）年度については、2020（令和2）年3月28日に学校関係者評価委員会を開催した。</p> <p><意見></p> <p>【学識経験者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際化にそった学習や ICT 教育が進んでいるのは非常に好ましく、高く評価する。 ・部活動を望まれる生徒・保護者は多いが、過剰負担になってる。強要ではないスタンスが必要な時代であると思われる。 ・生徒、保護者、教職員、学校関係者等の声に耳を傾け、より良い学園にするための努力を怠ることなく継続している様子が伝わってくる。少子化の中、生徒たち一人ひとりの状況をいっそうきめこまやかに把握しながら、基礎学力の充実化をどう実現していくかという点において、これまで以上の成果が求められているように思われる。生徒や保護者からの多様なニーズを捉えつつ、一人ひとりの賜物を大いに伸ばしていきたいところである。これまでの清教学園の良さを生かしつつ、生徒と教職員の個の伸長をさらに大事にする形に組織としてますます成長を遂げてほしい。また、大学入試も変わろうとしている中、これまでに成功してきたアプローチに加え、新しい要素を入れてさらなる質的向上を図ることも必要だと思われる。 ・隣人を愛するというキリスト教精神をより具体的に推していただきたい。 ・学園ウェブページがリニューアルされた機会を生かし、さらなる案内や発信を図っていただきたい。 <p>【学園卒業生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に平和で整った学校だという評価が得られているように思われる。 ・<評価結果の比較的低かった項目> では、学習時間と質の保証が求められている

<p><評価結果の比較的低かった項目></p> <p>【中学生】</p> <p>(31) 公平な教員が多い 70.9%</p> <p>(17) 部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている 71.5%</p> <p>(22) 悩みや相談に親身になってくれる教員がいる 73.9%</p> <p>【高校生】</p> <p>(17) 部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている 58.0%</p> <p>(31) 公平な教員が多い 63.1%</p> <p>(4) 知り合いや後輩に学園への入学を勧める 66.2%</p> <p>【中学保護者】</p> <p>(10) 塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく 59.0%</p> <p>【高校保護者】</p> <p>(10) 塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく 60.7%</p> <p>(17) 部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている 66.7%</p> <p><全体総括></p> <p>SGH アソシエイト校としての最終年度にあたる 2019 年度、グローバル教育に関する全学的な取り組みへの信頼度はさらに高まり、生徒たちにおいても保護者においてもその活動内容に高い満足度が示された。また学習成果としても、本校生徒たちのプレゼンテーションが、全国高校生フォーラムの場で、SGH アソシエイト校としての最高位にあたる審査員特別賞を受賞するなど、5 年間にわたる教育プロジェクトの集大成を見ることができた。そして、建学の理念に基づくところの宗教教育については、中高とも生徒たちから高い評価が得られ、キリスト教主義の学園としての矜持を守ることができた。ただし、その一方で、ガイドラインの策定から初めての取り組み年度であった部活動については、どの部においても意識的な工夫が重ねられたが、生徒や保護者からの十分な評価を得るには、さらに努める必要があるという結果となった。引き続き、生徒たちが勉強時間の確保を無理なくできるよう、さらに検討と工夫を重ねたい。</p>	<p>ように思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響への対応が生じるため、全国的な臨時休校の機会をきっかけに、ICT 活用の面で培ってきたノウハウを組織として整理し、生徒たちが自宅でもオンラインネットワークを使った授業、指導、懇談、試験、自習などができる方法を整備し、日常的に使えるように研究していただきたい。 学園理念や社会とのかかわりの中での学習ということを考えると、社会で具体的に平和な生活をつくることにエネルギーを費やしている方々を生徒たちに紹介するような学習機会をもっと増やしていただくのが良いのではないかと。SGH での活動でそのためのノウハウも積み上げられたはずである。 新型コロナウイルスの影響により就学の継続が困難になるといったケースが出てくる可能性もあるだろう。とくに中学生については無償化施策との関係でそのおそれがあることから、生徒たちが経済的事情で退学しなくてもよいように、奨学金制度の再確認を進めてもらいたい。充実した学園生活を送ってもらうためにも、それを支えるべく、奨学に関する観点における配慮がこれまで以上に求められるのではないかと。対コロナ、対アフターコロナの両方の視点を携えて、生徒たちの学びをより豊かなものにする工夫を整えてほしい。そうすることで、学園の教育活動や姿勢をさらにご理解いただけるようになるはずである。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	(1) 学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進	<p>ア. 礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。</p> <p>イ. バランスの取れた教育活動を通じて、生徒の自律・自立を促し、自己肯定感を高める取り組みを推進する。</p>	<p>学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。</p> <p>ア. 建学の精神に関する理解、および宗教・人権教育が重要視されているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても 80%以上 (前年度→前者については生徒：中 88.0%、高 74.6%、保護者：中 88.4%、高 88.1%、教員：73.2%、また、後者については生徒：中 96.0%、高 83.0%、保護者：中 98.3%、高 90.8%、教員：76.8%)</p> <p>イ. 生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても 80%以上 (前年度→生徒：中 96.0%、高 81.9%、保護者：中 90.9%、高 90.0%、教員：100%)</p>	<p>建学の精神の理解については、中学生 (86.7%)、高校生 (82.1%) 及び中高保護者 (中 82.9%、高 90.2%) の評価が 80%を越えている。教員 (69.8%) についてのみ 80%に及ばず、昨年度より低い数値となった。教員の求める基準が高いということか。また、宗教・人権教育については、教員 (75.4%) を除く全ての評価対象枠において 80%を越えている (生徒：中 95.7%、高 86.8%、保護者：中 93.4%、高 94.0%)。昨年度同様の傾向である。これも教員の求める基準が高いということだろうか。(○)</p> <p>中学生 92.7%、高校生 89.7%、中学保護者 94.3%、高校保護者 93.9%、教員 94.3%と、前年度に引き続き全ての評価対象枠において 80%以上の好評価が達成された。賜物を生かすことを念頭に、それぞれの生徒に対する丁寧な指導を引き続き行っていきたい。(○)</p>

1 教育の質的向上	<p>(2) 学力向上をもたらす学習指導の工夫、および生徒の自主的な学習姿勢の育成</p>	<p>ウ. グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。</p> <p>エ. ICT等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。</p> <p>オ. 個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。</p> <p>カ. 生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。</p>	<p>ウ. 姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実しているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上 (前年度→生徒：中96.0%、高90.9%、保護者：中97.6%、高93.6%、教員：100%)</p> <p>エ. 学力向上につながる授業が多い(主要5教科平均)および電子黒板・書画カメラ・私物情報端末の学習効果に関する評価結果がどの生徒においても80%以上 (前年度→生徒：中93.6%、高79.4%)</p> <p>オ. 「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」「理解が不十分なときに面倒をよく見てくれる」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中81.2%、高72.8%、保護者：中61.6%、高71.4%)</p> <p>カ. 「図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中92.8%、高69.8%、保護者：中94.2%、高90.3%)</p>	<p>中学生91.5%、高校生87.6%、中学保護者98.1%、高校保護者92.9%、教員94.3%と、全ての評価対象枠において80%以上の好評価が達成された。短期・長期の留学生の受け入れ、多様な海外研修や留学制度の充実など、尽力している取り組みが実を結んでいると言える。(○)</p> <p>学力向上につながる授業が多いという評価(主要5教科平均)については、中学生は前年度からやや下落し、平均で89.4%という結果であった。昨年は5教科全て90%以上であったが、今年は理科・社会は80%台であった。高校生は前年度から若干上昇し、83.7%であった。数学・理科・社会は80%台であったものの、国語・英語は70%台であった。昨年度に続いて、国語・英語の評価が低く、さらなる研鑽が必要である。授業形態としては「主体的、対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」が定着しつつある。これを今後も発展・継続させつつ、満足度向上に努めてゆきたい。電子黒板等の効果について中学生は89.1%が高評価であったが、昨年度の93.6%よりやや下落した。高校で導入3年目となる私物情報端末については、高1では昨年の73.1%から80%に上昇、高2でも昨年の66.5%から78.8%に上昇しており、ようやく情報端末の利用が定着しつつあると思われる。今後、今以上に活用を推進し、一層の満足度向上につとめたい。(△)</p> <p>中学生は81.2%と昨年度の81.2%と全く同じ値であった。高校生は75.1%と昨年度の72.8%よりやや上昇したが、80%にはまだまだ及ばない。この観点は保護者の評価はさらに低く、中学保護者68.1%、高校保護者67.2%である。この項目の評価上昇は緊急の課題であると言える。理解が不十分な生徒に対して、授業や補講・追試などに加えて、私物情報端末を使ったWEB教材の活用を推進することで、この項目の改善を図りたい。(△)</p> <p>本校図書館「リブラリア」の積極的な取り組みが中学生に対しては成果を上げており、昨年の92.8%に引き続き、今年も91.5%と高評価であった。一方、高校は図書館から離れているという不利な面もあるが、朝の読書の時間の生徒による「絵本の読み聞かせ」などの取り組みが功を奏したのか、昨年の69.7%から今年78.1%と大幅に上昇した。今後も高校生に対する継続的な取り組みが必要である。(△)</p>
	<p>(3) キャリア教育の拡充を含む進路指導の充実化</p>	<p>キ. 将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。</p>	<p>キ. 「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」「将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている」「進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中82.1%、高80.4%、保護者：中75.8%、高84.7%)</p>	<p>中学生では昨年度82.1%、今年度81.5%と、引き続き80%を上回った。低学年からの進路への意識付けが、ある程度定着しつつあると言える。高校生では昨年度の80.4%から今年76.2%へと下降した。卒業生進路講演会、大学の出張講義、大学見学ツアー、夢ナビライブなど、進路意識向上のための行事は数多く実施しているが、そのような行事だけでなく、一人一人の生徒に寄り添ったきめ細やかな指導が必要と思われる。(△)</p>

2 生徒 にお ける 学 校 生 活 の 充 実	(1) リーダーシップの育成にも資する特別活動の充実化	ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事のあり方を追求していく。 イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはとくに、両者のバランスがきちんと確立されているということが求められており、学内外の関係者において納得してもらえる状況を作っていくのが重要である。	ア. 「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中88.8%、高70.6%、保護者：中94.2%、高88.5%、教員：82.1%) イ. 「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中70.4%、高55.1%、保護者：中77.7%、高70.7%、教員46.4%)	特に保護者からは中学100%、高校90%超の高い評価を得た。前年度約70%と低い評価であった高校生についても、2020年度に文化祭開催の予定もあり83.4%と高い評価を得た。中学生も90%超の高い評価である。今後も工夫を重ねて、生徒が輝き、賜物を生かす教育を実践したい。(○) 前年度に引き続き、評価は高くなかった。(中学生保護者を除き80%未満)。多くの関係者がさらなる配慮を求めていることは明らかである。ただ、今年度より施行されたガイドラインにより、改善傾向も見受けられる。時代にふさわしい「文武両道」を、はじめを大切にしながら、部活動の成果と学習面における指導との両輪が揃う方法を、今後も模索しなければならない。(△)
	(2) 社会性の高まるような生徒指導の充実化	ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのない学校作りへの取り組みを通じて、学校生活における基本的環境を整えられるように図る。	ウ. 「規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされているか」・「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」・「生徒が問題行動を起こしたときにきちんと対応している」に関する評価結果の平均値がすべての評価対象者枠において80%以上 (前年度(平均値)→生徒：中79.7%、高82.5%、保護者：中85.5%、高93.1%、教員91.7%)	保護者から90%超の高い評価を得た。また、中学生・高校生・教職員からも80%を超える評価となつてはいるが、中学生の「いじめや暴力のない…」の評価が改善はしているものの80%を下回っている(78.2%)。再度、HRやデイリーノートなどを通して、生徒の日々の様子を注視し、指導することを大切にしていきたい。(△)
	(3) 生徒が安心して学校生活がおくれるような生徒支援の推進	エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生徒における健康意識の醸成に努める。 オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身になって対応にあたるように努める。それにあたっては、専門家との連携も進め、カウンセリングマインドの醸成をさらに図りたい。	エ. 「保健教育を通して健康管理の大切さについて意識を高める指導がされているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上(前年度→生徒：中91.2%、高77.7%、保護者：中90.1%、高85.8%、教員：85.7%) オ. 「悩みや相談に親身になってくれる教員がいるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上(前年度→生徒：中76.0%、高74.2%、保護者：中79.4%、高89.4%、教員100%)	前年度に引き続き、高校生を除いては全ての評価対象者枠において80%超の高い評価となっている。特別号を含めると年間15回ほどの「保健だより」の発行や生徒や保護者への丁寧な対応などが効果的であったと考える。唯一、80%に達していないのが高校生であり、高1生徒が88.6%、高2生徒が76.3%、高3生徒が74.4%と学年が上がるにつれて評価が低くなる傾向が見られた。高3は保健の授業がないことも関係があるかもしれない。(△) 生徒における評価は中学73.9%、高校79.2%、保護者における評価は中学84.8%、高校87.4%。学年別で見れば中3(69期)は昨年の73.9%から86.6%へと大幅に改善が見られた。中高教員の評価は92.5%であるが、中高生徒の評価は77.6%にとどまり、生徒と教員の評価の乖離が大きい項目の1つと言える。悩みを相談できない生徒が、教員が考えているより多い可能性があり、相談しやすい環境整備が必要である。(△)

3 環境整備力の向上	(1) 施設の充実	<p>ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自学自習の習慣を身につけられるように図る。</p> <p>イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。</p>	<p>ア. 「自習室は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中85.6%、高64.9%、保護者：中83.4%、高81.6%、教員85.7%)</p> <p>イ. 「食堂は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 *高校のみ (前年度→生徒：高71.2%、保護者：高67.9%、教員55.3%)</p>	<p>中1、2は比較的評価が高いが、中3、高2での評価が低い。特に高2においては67.8%であり、評価が低い理由として、ラーニングコモンズで中学生が騒いでいるというコメントが散見される。放課後のとりあえずの居場所として使われている部分もあり、運営方法の改善が必要である。各学年で運営されている自習室も、学年によって運営方法が異なり、それによって各学年間で評価が分かれる原因になっていると考えられる。(△)</p> <p>前年から生徒、保護者ともに若干改善された。(生徒：高80.5%、保護者：高72.3%、教員52.9%) 以前から狭さについての不満が多かったが、食堂前のテラスの設置でやや改善されたと考えられる。また、衛生面での改善を求める声が散見される。券売機、レジの数を増やしてほしいという声も多く、改装などで改善ができると考えられる。(△)</p>
	(2) 外部環境への対応	<p>ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。</p>	<p>ウ. 「災害や不審者から生徒を守れるか」に関する評価結果が中高教員(73.6%)以外の全ての評価対象者において80%以上 (前年度→中学生87.2%、高校生81.0%、中学保護者91.4%、高校保護者86.3%、教員75.0%)</p>	<p>高校生において今年度81.0%と昨年度より8ポイント強上昇。一方、高校保護者においては今年度86.3%と3ポイント減。教員においては今年度73.6%と昨年度より微減。近年の自然災害続きで通学路の補修工事を行ったが、今後のより大きな災害の可能性に対してのより強固な備えが求められている。生徒をあらゆる危険から守るための努力を継続して行きたい。(○)</p>
	(3) 情報の共有化と発信力の促進	<p>エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を促す環境形成を図りたい。</p> <p>オ. ホームページ等を通じた発信を強化するとともに、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるように工夫を施したい。</p>	<p>エ. 「家庭への連絡は適切に行われている」に関する評価結果がどの評価対象者においても80%以上 (前年度→中学生94.4%、高校生86.7%、中学保護者83.5%、高校保護者85.3%、教員100.0%)</p> <p>オ. 「ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている」に関する評価が高校生と教員以外の評価対象者において80%以上 (前年度→中学生81.4%、高校生66.2%、中学保護者87.6%、高校保護者90.4%、教員69.7%)</p>	<p>教員において今年度90.5%と昨年度より10ポイント近く下降した。生徒・保護者は今年度もいずれの枠においても80%台後半と高い評価を維持している。教員・生徒・保護者の数値に乖離がほぼ見られない。生徒の健全成長を促進する環境作りに学校と家庭が良く連携しており、この営みを継続したい。(○)</p> <p>高校生において今年度72.0%と80%を下回っているものの昨年度より6ポイント上昇している。中学生80.6%、中学保護者83.8%、高校保護者91.8%と学園生活の発信状況が高く評価されている。一方、教員においては51.0%と厳しく評価されている。本アンケート実施後の最近漸く学園ホームページが刷新されたので、次年度には評価も変わることが予想される。インターネットを利用した自学習のための環境整備を含め、今後より一層のホームページ有効活用の研究と実施を進めたい。(△)</p>